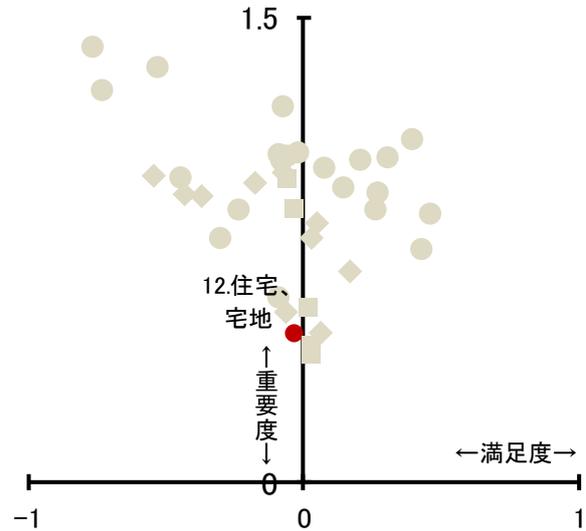


## 41 住宅、宅地

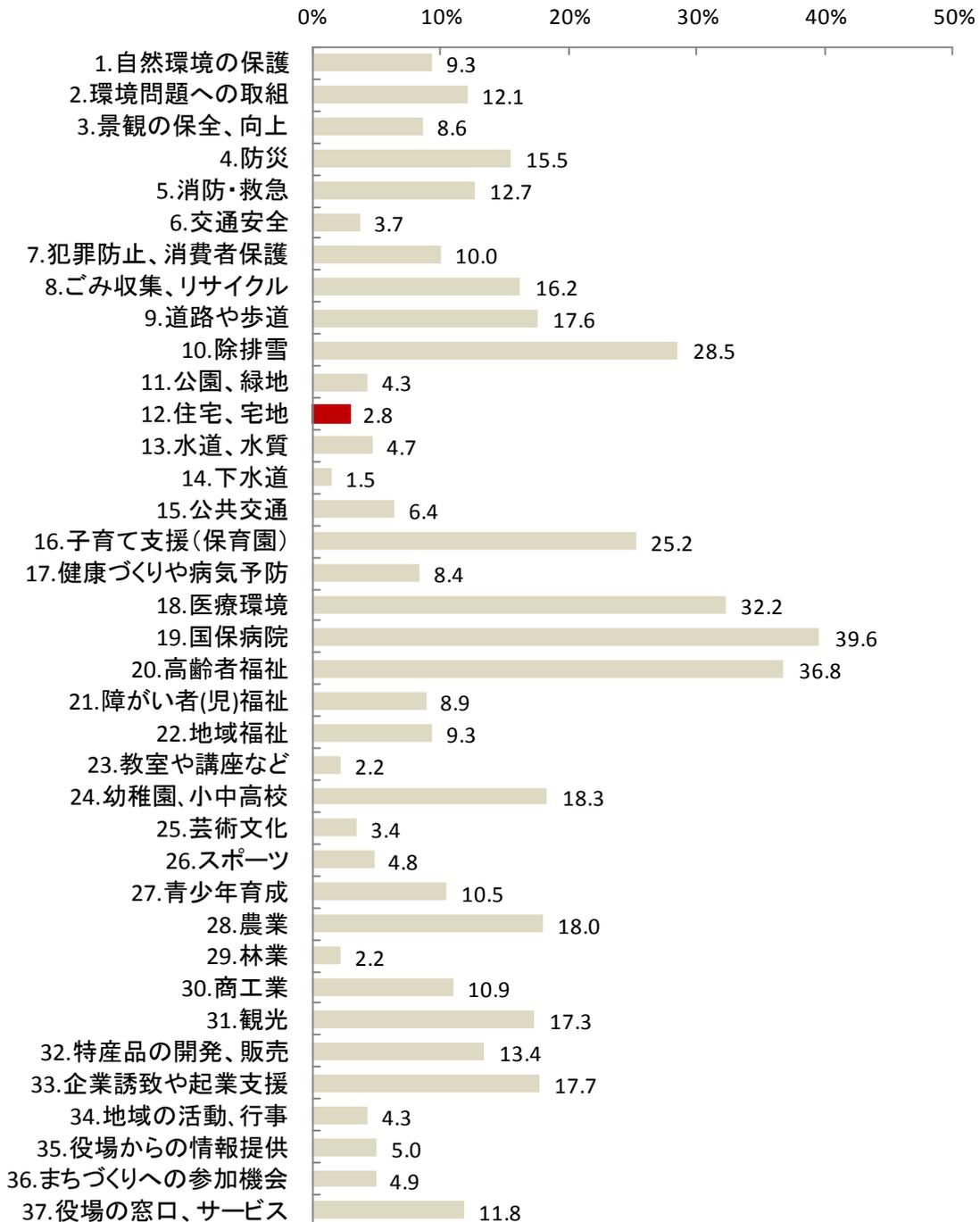
(1) 関連グラフなど

**【問2】暮らしの満足度・重要度**  
満足度をヨコ軸、重要度をタテ軸にした場合の位置づけです。

**【問3】特に重要なもの**  
問2と同じ37項目の中から、特に重要と思う項目を5つ選んでもらった位置づけです。



**【問3】特に重要と思うもの(5つまで選択/町民813人)**



(2) 現計画の検証

施策	主な取り組み	進捗状況	問題・課題	今後の見通し、方向性
公営住宅の整備	住生活基本計画の推進	諸課題等の整理を実施	今後の人口減少に伴う計画の方向性	今年度策定される[第6期総合計画を基に、平成28年度において中間見直し計画を策定予定
	公営住宅等長寿命化計画による維持管理	諸課題等の整理を実施	建設から30年近く経過した公住は、給排水管等・外壁等の劣化も進んでおり、大規模な改修が必要となってきた。改修をする場合、入居者の一時的な住居の確保が課題。	優先順位を決め、老朽化した公住の機能向上に向けての検討
民間の住宅、宅地整備の促進	住生活基本計画の推進	諸課題等の整理を実施	今後の人口減少に伴う計画の方向性	今年度策定される[第6期総合計画を基に、平成28年度において中間見直し計画を策定予定
	民間が行う融資制度による住宅整備促進	民間が実施している融資制度は民間の力で啓蒙できていることから、町の取り組みの必要性が低く、融資制度のPRによる民間住宅の促進は実施していない。	経済が低迷する中、融資制度による住宅整備の促進は困難である。	融資制度の啓蒙・啓発活動は民間で実施していることから、町の介入する必要性は低い。
	ユニバーサルデザイン※の推進	公共施設ではユニバーサルデザインに配慮しており、広く町民に触れる機会を提供している。	ユニバーサルデザインの推進には、住棟配置や住まいの間取りの決定から、内装・建具・住宅設機器の選択まで、トータルにプランニングしなければならないことからコスト高となる。	住宅建築時には入居者に応じた設計としていることから、バリアフリー住宅が浸透している。
	住宅リフォーム助成事業の検討	平成23年度の過去3カ年で452件の補助実績で、平成26年度においても142件の要望があり、住民要望に応えるため補正予算で対応している。	平成29年度以降の制度の在り方と需要の掘り起こしが課題となっている。	平成27年度・28年度の2カ年で、リフォームを希望する方の全てを実施する。
北国の気候風土に適した住環境の整備	北海道が進める北方型住宅※の啓蒙、啓発	北海道が発行するポスターの掲示等	省エネ性能の向上に伴い建築コストの増	北海道が主体となって、技術者向けのセミナー等を開催していることから町での啓蒙・啓発の必要は低い。

※ユニバーサルデザイン：能力や障がいのレベルにかかわらず、すべての人々が利用しやすいデザイン。

※北方型住宅：少子高齢社会や環境問題など社会的変化に対応するため、耐久性、維持管理の容易さ、ユニバーサルデザイン、省エネ、雪処理等に配慮した住宅。

### (3) 意見、提案

☺ : 小学生   ● : 中学生   ⊗ : 育児ママ   ♪ : 自衛隊   ※ : 高齢者   ● : 町民   ○ : 職員

#### 【将来なっしてほしい美幌町の姿】

☺ 南団地でもペットが飼える

#### <公営住宅>

- 公営住宅で犬を飼っている人が多いです。もう少しピリっと思います。(女性・50代)
- 1人住まいでも広い公住があると良い。ペットといっしょに住める公住があるといい。広めの平屋がいい。年齢がいくと階段は大変(エレベーターが付いているといい)。(女性・60代)
- ひとり親、お年寄りなどが優先して入れる住宅などをもっと増やしてほしい。(女性・30代)
- 街中に(高齢者向けの)団地を造り、高齢者の管理をしやすくし、コンパクトな街造りで経費を削減する。(男性・50代)
- 借上住宅に住んでいるが、あと10年程で今の家賃では住めなくなる。収入も少ない為生活が不安。同じくらいの家賃で住める住宅(公住)を役場の方で世話を頂けると大変助かる。(女性・50代)
- 現在管理している町営住宅795戸は人口減少により多すぎるようになってきます。経年劣化激しく、コストもかかっています。古い団地を用途廃止し戸数を減らす。または、町営住宅自体を廃止し、民間借家に入居している方に家賃補助という形で援助する。民間オーナーは空室減、町は修繕費の減。双方にメリット有る。

#### <空き家>

- 空き家が多くなってきている。人口が増えるように、若い人が住みやすい街づくりをして下さい。若い人が損をしない魅力のある街にして下さい。高齢者が増えてきているので、若い人にも目をむけて、(収入の多い)高齢者よりも、少し損をしても若い人を大切にする街に。(女性・60代)
- 古い空き家が多く、景観が損なわれる。(女性・30代)
- 空き家対策。衛生面、美観のためにも。(女性・50代)
- 空き家の処理。解体費用がなかった場合、町が所有者と話し合い解体を進める。(土地を使わせてもらうとか、売るとか)。(女性・50代)
- 古い空き家対策を。景観も悪いので、町で助成し解体を促しては。程度の良い空き家は、移住希望者向けのバンク化など。(男性・40代)
- 空き家が多く、そのままになっています。固定資産税の問題があると聞いていますが、これからどうなるのか…色々ありますね。自分の問題として考えています。(女性・60代)
- 町の中の空き家、空き地の草刈り等の整理。(男性・70代以上)
- 空き家を整理する事。他の市町村ではやっている。(女性・60代)
- リノベーションによる空き家の活用。少子高齢化により町の人口も減少の一途をたどっているが、これに伴い市街地での空き家も目につくようになってきていると感じます。家を持ちたいと思いつつも新築には手を出せないと考える人も多いのではないのでしょうか。個人で中古物件を購入してリノベーションを行うだけでなく、不動産会社が空き家を安く購入してリノベーションを行い、それを個人に販売したり、賃貸物件として活用したりすること

も可能ではないでしょうか。空き家の増加は、防犯上においても問題になるものと考えられます。空き家情報を把握し、それらをいかにして活用していくか。そのための手法としてリノベーションを推奨する施策を行ってはどうか。

- 空き家対策が進まない原因のひとつに固定資産税の負担増があることから、長期間空き家になっている場合、小規模宅地の固定資産税の軽減措置を適用除外とすることで、空き家の利活用や解体撤去を誘導し、都市景観も改善できないか。
- Uターン、Iターンを推進する上で、着火剤にも燃料にもなり得るのが、空き家である。人口減少の進む町には少なからず空き家があるように思う（実態は知らない）。短期の旅行に伴う宿泊、中長期のお試しの滞在から、移住を決意してからの住居までなんでもあり！

#### <その他>

- 以前あった商工団地の様に、何棟（軒）か町の方で建て、住民の方に売る（建売）。その様式で、頭金は少なくても家を建てられないけれど、月々のローンの返済は出来るという人は居ると思います。（固定資産税等も町に入るので）提案します。（女性・50代）
- 美幌町の借家賃は北見市と同じか高いぐらいなので、定住してもらうための助成が必要、又、新築助成の思い切った充実も必要